

PASSIVE ARCHITECTURE & ACTIVE LANDSCAPE with NATURE

「建築は敷地を超えて緑をつなげるか？」

TOKYO HEAT MAP (建築研究所)を一瞥すれば、首都圏の苛酷さがわかる。TOKYO SKYTREE から半径50kmの眺めは、広大な、建材(そのほとんどは輸入したもの)砂漠のようにも見える。「崇高なもの、醜悪なもの、クオリティのかけらもないものを根底的に切り離して、(平穩に?)暮らしている」*1 東京は今も人口流入している。東京23区内の公園緑地はたった6%しかない。明治神宮、皇居、赤坂御所、新宿御苑などがクールアイランドなのは一目瞭然である。スクラップされた敷地(空地)*2は4%だという。それ以外のヒートアイランドの敷地は、公共であれ、私有であれ、境界線で囲い込まれ、細分化が進行している。この細分化は、とりわけ戦後のことのように思われるが、この敷地境界を越えて、<続いている>、あるいは<繋がっている>ものがあるだろうか。その建築の日常は、どれだけ社会性(公共性)、地域性を備えているだろうか?

URBAN UNITでは、生涯で160以上の住宅を設計した永田昌民氏の作品のうち、東京23区内にあるものをいくつかとりあげ、また、神戸での里山住宅博(2016)ヴァンガードハウスで「これからの家」を設計した堀部安嗣氏の、23区内で進行中の建築をとりあげて、URBAN ECOLOGYを眺めてみたい。それらは、クールアイランドに連なるクールな因子のはずである。一方、神山町(徳島県)は東京23区の面積の3割弱の中山間の小さな町で、小中学校各学年の同級生20人。神山町「成り行きの未来」の予測は、県立高校分校廃校にはじまり/バス路線の廃線/ケーブルテレビ事業の撤退/サテライトオフィスの撤退、近隣(徳島市?)への合併/病院、商店、タクシー会社の撤退とつづき、2040年には最後の小学校と中学校が廃校するというものである。神山町では、その予測を克服すべく、地道な取り組みをしてきた。それらは、前回2016年の建築展で、「en(縁):beyond-SHARING(価値観やライフスタイルを共有)する共同体」の出現として、社会変革の可能性の胎動を明らかにした。さらに2016年から、集合住宅(新しい公共住宅づくり)、民家改修(朽ちる前に家をいかす)、フードハブ(神山町の農業と食文化をつなぐ)のプロジェクトを進めている。いずれも中学校、高校分校とは教育連携で、日々直面する課題にとり組んでいる。

RURAL UNITでは進行中の集合住宅プロジェクトを通してRURAL ECOLOGYを眺めてみたい。「高度経済成長」でできた国道に向いていた(川を背にしていた)視界を、神山の歴史と文化のルーツである鮎喰川とその流域(町域と同一)の再生に開く取り組みでもある。

URBAN ECOLOGY<都会でおこっていること>とRURAL ECOLOGY<田園でおこっていること>は表裏一体の関係であろう。東京は明治神宮の森(100年前に人がつくった森)、神山町は鮎喰川がECOLOGYの主軸である。

- *1 レム・コールハース(1993)
- *2 TOKYO VOID(2014)

参加チームの体制

タイトル PASSIVE ARCHITECTURE & ACTIVE LANDSCAPE with NATURE

「建築は敷地を超えて緑をつなげるか？」

キュレーター 田瀬理夫(タセミチオ)ランドスケープデザイナー/プランタゴ代表

- 制作委員会
- ・安宅研太郎(アタカ・ケンタロウ) 建築家
 - ・清水敬示(シミズ・ケイジ) 微気候デザイン研究所代表
 - ・小池一三(コイケ・イチゾウ) 町の工務店ネット代表理事
 - ・西村佳哲(ニシムラ・ヨシアキ) リビングワールド代表
 - ・石川初(イシカワ・ハジメ) 慶應義塾大学SFC環境情報学部教授
 - ・映像(URBAN UNITの作者、調整中)

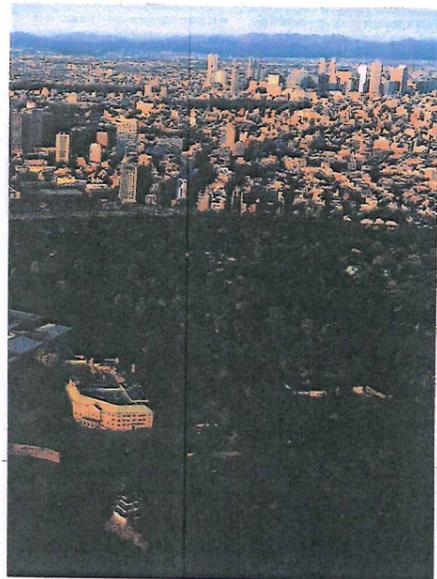
出展作家等 URBAN UNIT

- ・霜田亮祐(シモダ・リョウスケ) 千葉大学大学院准教授/景観計画
- ・永田佑子(ナガタ・ユウコ) 里山研究家
- ・堀部安嗣(ホリベ・ヤスシ) 堀部安嗣建築設計事務所代表
- ・宮田生美(ミヤタ・フミ) ゴバイミドリ代表

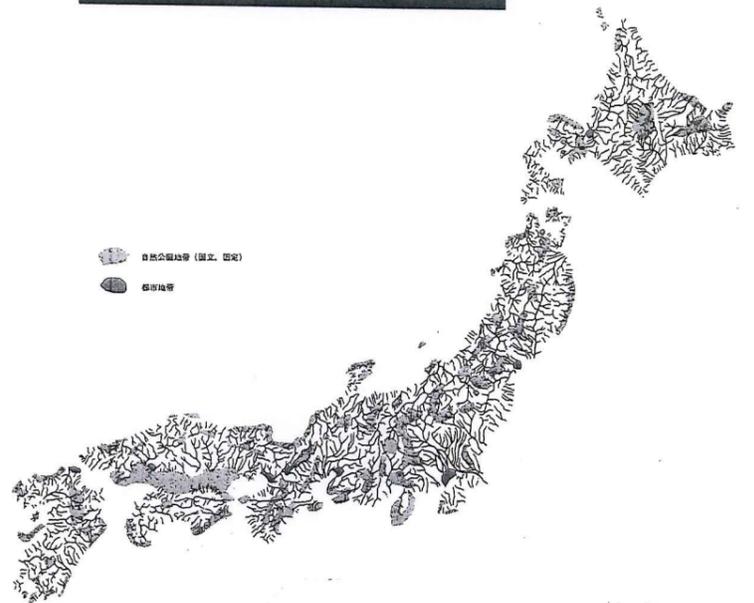
RURAL UNIT

- ・徳島県神山町
- ・一般社団法人 神山つなぐ公社
- ・神山町のあす環境デザイン共同企業体(木造集合住宅プロジェクト)
- 山田貴宏(ヤマダ・タカヒロ) ピオフォルム環境デザイン室/建築
- 田瀬理夫(タセ・ミチオ) プランタゴ/ランドスケープ
- 高木雅行(タカギ・マサユキ) 一級建築士事務所(有)アルキノーバ
- 鎌田あき子(カマタ・アキコ) ユニットタネ/ランドスケープ
- 吉田涼子(ヨシダ・リョウコ) レジデント/建築
- 池辺友香子(イケベ・ユカコ) レジデント/建築
- 秋山晴日(アキヤマ・ハルカ) レジデント/ランドスケープ

会場デザイン 林英理子(ハヤシ・エリコ) リユースニング 他1~2名(検討中)



クールアイランド:



わが国の水系

「すぐれた景観は、日本人の情意のルーツを形成した。景観の主軸は地形と緑である。」(1979/緑化土木/斉藤一雄)

生物多様性とは、その水系・地域に「あるべきもの」が「ある」状態をいう。

メンバーの役割

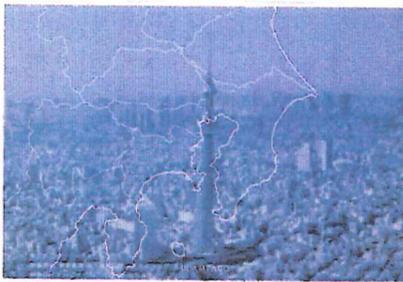
- 展示デザイン全般のディレクション
- 日本の気候区分と微気候デザインについて
- 永田昌民の作品解説/カタログ編集
- RURAL UNIT 監修/カタログ編集
- 流域の観察について(日常的/局所的と広域的/地理的をつなぐ)

- TOKYO HEAT MAP と景観について
- 永田昌民のしごととその後
- 「建築のはじまり」これからの建築について
- 「里山と都心をみどりにつなぐ」5×緑のとり組み

- 「神山町のとり組み」
- RURAL UNIT 監修/映像、写真
- 集合住宅プロジェクトのデザイン概要

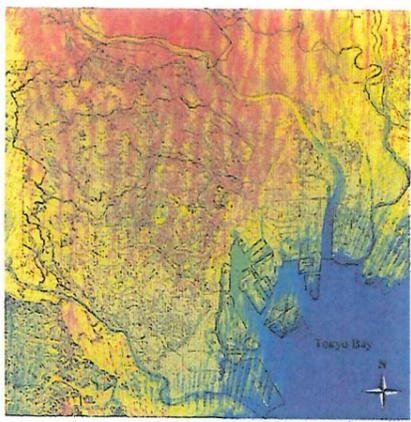
展示イメージ
作品イメージ

① SKYTREE からの眺め 投映



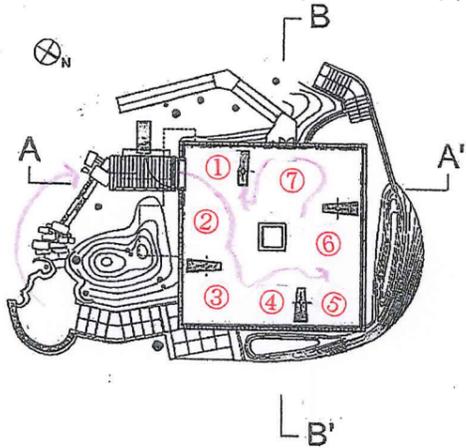
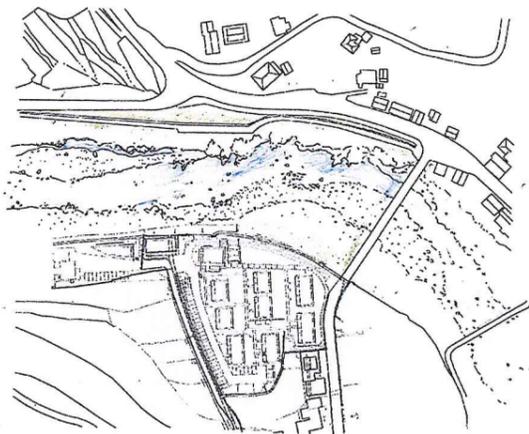
首都圏の建材砂漠
「崇高なものと、醜悪なもの、クオリティのかけらもないものを
根底的に切り離して、(平穏に?)暮らしている。」(1993年
レム・コールハース 初来日の印象)

② TOKYO HEAT MAP 投映

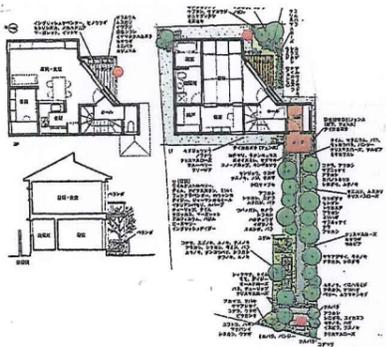


東京 23 区全域における気温状況 (2005 年 7 月 31 日 14
時, 地上 2m)
出典:東京ヒートマップ(国立研究開発法人建築研究所 発行)

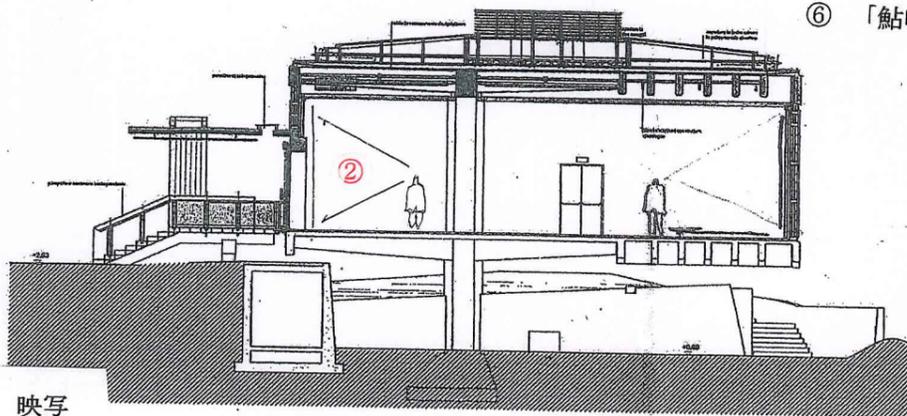
⑤ 集合住宅プロジェクトの展示 (パネル、モケイ)



③ 建築作品の展示 (パネル、モケイ)



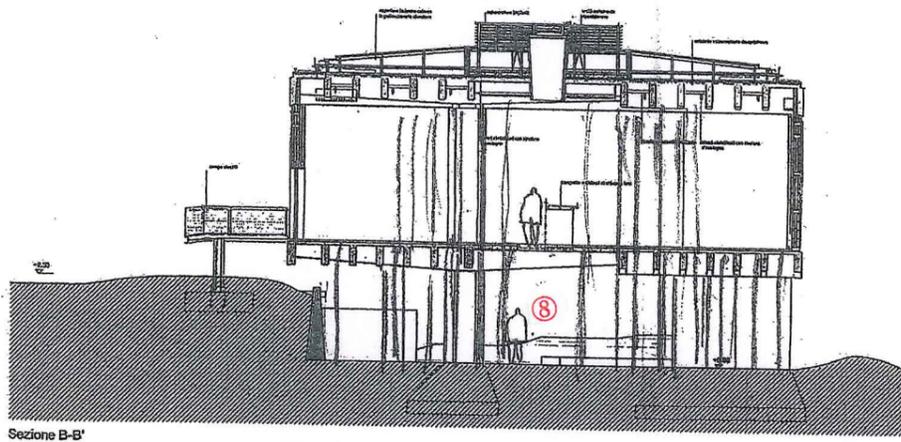
key map



⑥ 「鮎喰川のたまもの」川の石やコンクリート塊を展示



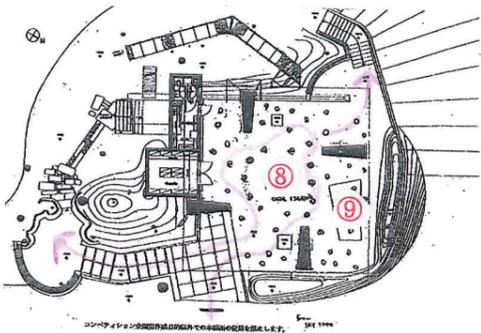
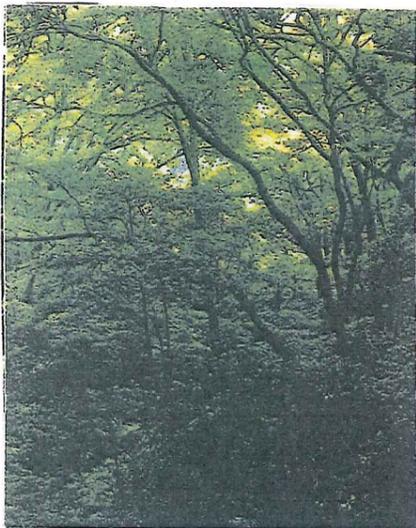
④ 5×緑のとり組み フィルム 映写



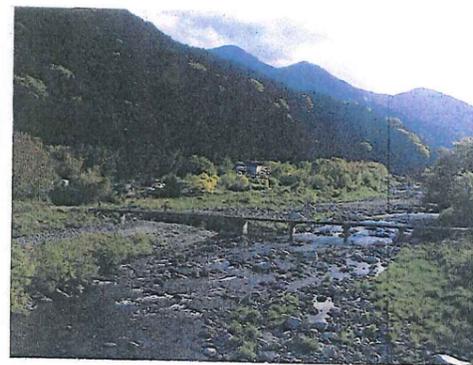
イボタノキ

⑦ 「鮎喰川のたまもの」流域の植物を展示
教育プログラム紹介 (スキャンデータ)

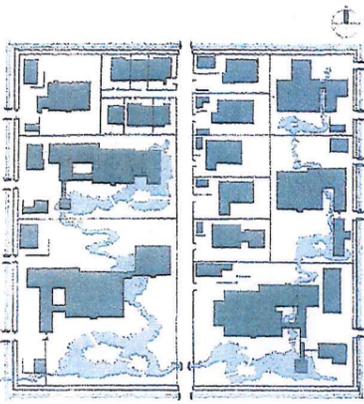
⑧ 明治神宮の森 投映



⑨ 鮎喰川 フィルム映写

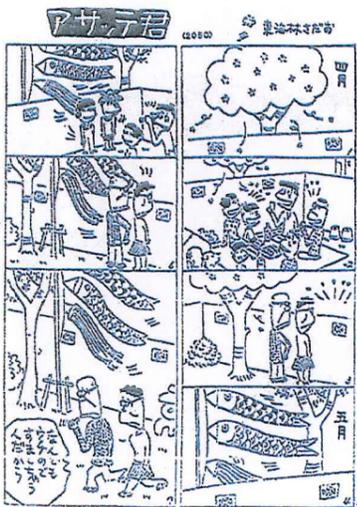


■土地の所有と境界線



平安京の街区割と道水の関係想定図
(西澤文雄「小島第2庭園論」よりトレス)

1000年前の都市計画



東宮井まどお母「アサアサ」
(1980年5月5日付毎日新聞朝刊より)

固い込み世代と人まかせ世代
土地にへばりつく経済と所有価値
敷地境界を超越する

URBAN ECOLOGY

■都市でおこっていること

- ・日照不足
- ・水分不足
- ・水分過多
- ・化学肥料過多
- ・薬剤投下
- ・日射熱を蓄積するペイブ (夏暑く、冬冷たい(コンクリートやアスファルトの舗装))
- ・地面はほぼ人工地盤である。

■都市の公園、緑地でおこっていること。

- ・造園樹木による単調な植物相
- ・落葉の除去
- ・雨水の直接放流
- ・踏圧
- ・薬剤散布 (除草剤・殺虫剤・殺菌剤)
- ・限られた生物相
- ・外来種植物による緑化・ガーデニング

RURAL ECOLOGY

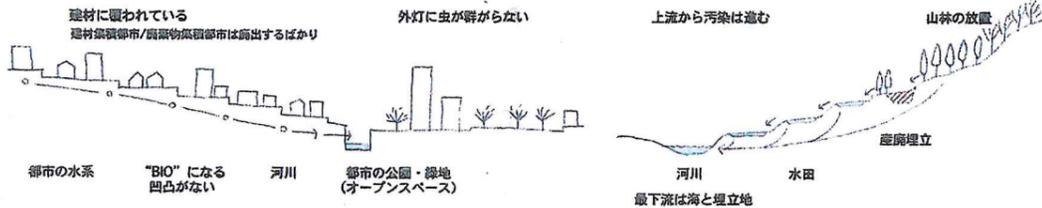
■田園でおこっていること

生業不在=年中行事の劣化=里山のエコロジーの質化

- 里山林の放置による
- ・植物相の劣化
- ・生物相の劣化
- ・野生動物 サル・シカ・イノシシなどの増殖

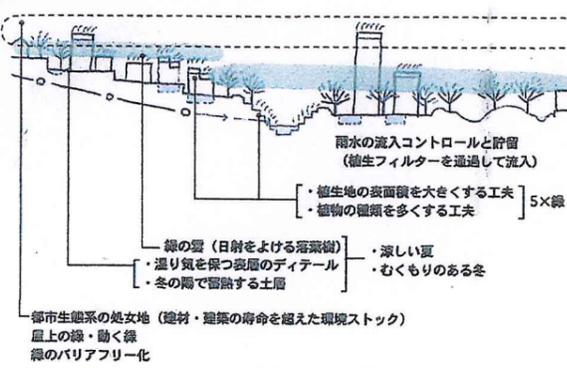
○田、畑の消力化による生産基盤の喪失

- ・水系の汚染 (化学肥料、農薬・除草剤、産業廃棄物埋立地流出水など)
- ・土壌の劣化 (休耕化)
- ・植物相の劣化 (あぜ道の喪失、泥床水路の喪失)
- ・生物相の劣化
- ・気象景観の喪失



■アーバンエコロジー (生物環境形成) 都市の再構築

- ①植物と生物の種類を多くすること (草本・木本)
- ②水分・養分をストックすること
- ③活性度を高める (生長量ではなく健全な生物・植物の生育)
- ④長寿な土壌生物環境形成すること (微生物のストック)



GABION GREENING (緑色革命)

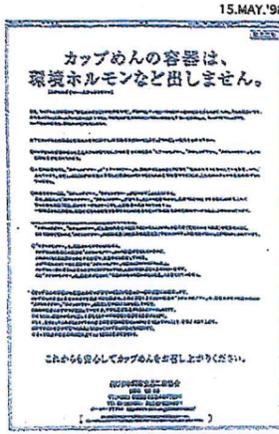
■ルーラルエコロジー (田園ルネッサンス) 流域の再生

- ①扱下されたインフラを活かして環境再生を産業化すること
- ②若者が地域に留まる (戻れる) こと
- ③農業を有機化すること
- ④地域植生に従うこと

地域の生業の復活



■流域の修復と地域のアイデンティティ



1962 ('74) SILENT SPRING
1996 ('97) OUR STOLEN FUTURE
2006 An Inconvenient Truth
見えないものを見る

- <総合科学技術会議>
- ・自然共生型流域圏・都市再生技術研究イニシアティブ (2002~関係省庁連携研究)
- <文化庁>
- ・重要文化的景観の選定
- <農林水産省>
- ・棚田百選
- ・「合理的農業の原理」究釈 (2007年/農文協)
(農学のアダム・スミス/アブドレド・アブドレド (1782-1829) 著)
- <NHK>
- ・Japanese cool
- <.....>
- ・ジョサイア・コンドル来日130年余
- ・「願はくは之を語りて平地人を戦慄せしめよ」の柳田國男の『遠野物語』刊行から100年
- ・GM設立からちょうど100年
- ・2012年には新東京タワーが地上450mから首都圏の現状を一望することになる

まちのこれからを
将来世代もまじえて探ります

・神山つなぐ公社 (企画、発行) のフリーペーパーの紙面より

あたらしい公共住宅づくりに
取り組んでいます

神山町は、耐震基準を満たしていない中学校の旧学生寮「青雲寮」(大盛地)を解体し、子育て世代を中心とした木造の低層集合住宅を建設します。

まちの子育て世代、これから神山で子育てたい夫婦や家族、若者などが同居対象。多様な世代の家族がともに暮らすことで、子供同士が一緒に遊んだり、家族同士で助けあえるなど、関係を育める集合住宅となるように計画です。集合住宅の住民以外のまちの人も使える共有施設も建設予定。

計画・設計は「神山のあす環境デザイン共同企業体」が、神山の住環境や地域性を丁寧に調べながら進めています。

ランドスケープ・デザインは田原理夫(プランダコ)さん、建築設計は山田貴宏さん(ピオフォルム環境デザイン室)。両名を中心に、田原さんと協働する鎌田あきこさん、解体設計を担当する高木雅行さん、神山町で今年6月に開催された協働設計者募集イベントで出会った若手の設計者4名が参画して進めています。

既存青雲寮の解体ガラ(コンクリート)は、廃棄物扱いせず、土地のかさ上げや集水トレントづくりに、敷地から外に出さず再利用します。

これまで、この規模の建設工事は町外の業者さんにお願いしてもらったことが多かったのですが、今回は町内の大工さんたちと力をあわせて進められるよう、設計や開発手法を工夫しています。

木材も神山の山でとれる町産材を活用、緑地も地域の自然組織で構成するなど、人も建材も自然も、いままちの中にあるものを活かしていく。あたらしい公共住宅です。

子供たちが安心して遊べる空間
人のための空間と車道を分ける計画です。駐車場は各戸ごと2台分に加えて、外来者用を配置予定

緑地の草木を地域の高校生と
城西高校神山分校の生徒さんと初夏や秋の山に入り、実生や種を採取。複数の在来植物による緑地をつくります

全21戸を予定



第一期入居募集は2017年春~初夏を予定

「集合住宅についてもっと知りたい!」方は、
8月26日より開講する
「鮎喰川すまい塾」にご参加ください
→次ページを参照

*この図は土地利用の方向性を示す計画図。子細の設計は、現在進行中です。

集合住宅
プロジェクト
次の世代のすまいづくり

PROJECT DIARY



5/23, 5/31, 6/5の3日間、神山町役場で、「あたらしい集合住宅でどう暮らしたい? ミーティング」を開催。計画の大盛地でも2回ほど、計画案の紹介と話し合いの時間を持った



5/30 青雲寮の解体設計に向けて、ランドスケープデザイン・チームによる事前調査を完了



6/17~19 協働設計者募集の2泊3日イベントを開催。全国から14名が参加し、うち数名がプロジェクトメンバーになった



7/30 設計チームによる町内の民家調査。神山の住環境を手本に、将来世代が使いつづけることのできる、島の新しいすまいづくりをめざしている